株式会社　　御中

脱炭素社会　インフラ社会実装

近未来発電ソリューション

カーボンフリー・カーボンオフセット

次世代インフラ実装　ご提案資料

社会資源開発コンソーシアム

目　次

・カーボンオフセットについて・・・・・・・・・・・・・・・・p.02

・ＩＲ　活　動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.06

・工事に関して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.13

・申請の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.14

・導入事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.15

カーボン・オフセット

カーボン・オフセットについて

①市民・企業等が、自らの温室効果ガスの排出量を認識する

②主体的にこれを削減する努力を行う

③削減が困難な部分の排出量を把握

④他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減量等を購入
　③の排出量の全部又は一部を埋め合わせる → Jクレジット制度

①

家庭やオフィス、移動(自動車・飛行機)での温室効果ガス排出量を把握する

②

省エネ活動や環境負荷の少ない交通手段の選択など、温室効果ガスの削減努力を行う

③

削減が困難な排出量を把握し、他の場所で実現したクレジットの購入または他の場所での排出削減活動を実施

④

対象となる活動の排出量と同量のクレジットで埋め合わせ（相殺）する

年間CO2排出量に関する試算例

2Kw炭素排出Zeroジェネレーターを１００台導入した場合

CO2排出量＝電力使用量×CO2排出係数

令和3年1月環境省・経産省公表データを元に
東電の0.455（t-CO2/千kWh)を参考に計算。

２ｋｗ/ｈ(発電)×２４ｈ＝４８ｋｗ/日

４８×３６５＝１７，５２０ｋｗ/年

１，７５２×０．４５５＝７９７．１６

年間で約７９７ｔ削減出来る事になります。

【Jクレジットの価格推移】

♦再エネ発電の入札結果

	開催期間	落札価格の平均値（税抜）	
第1回	平成28年6月6日～6月9日	510円/t	0.26円/kWh
第2回	平成29年1月5日～1月12日	1,594円/t	0.82円/kWh
第3回	平成29年4月12日～4月18日	908円/t	0.46円/kWh
第4回	平成30年1月26日～2月1日	1,716円/t	0.88円/kWh
第5回	平成30年4月12日～4月18日	1,724円/t	0.88円/kWh
第6回	平成31年1月25日～1月31日	1,830円/t	0.94円/kWh
第7回	平成31年4月12日～4月18日	1,801円/t	0.92円/kWh
第8回	令和2年1月6日～1月10日	1,851円/t	0.95円/kWh
第9回	令和2年6月22日～6月29日	1,887円/t	0.97円/kWh
第10回	令和3年1月13日～1月20日	2,191円/t	1.12円/kWh

第1回の510円/tから**5年**で

約**4倍**の価格平均に！！

※これからも上がる事が充分予想されます！！

ＩＲ活動

【主なIR効果】

（１）カーボンフリーの発電方法において社会的インパクトを与える

（２）CO2削減

（３）防災対策

（４）電力不足に対応

（1）社会的インパクト

炭素排出量Zero発電を実現

これまでのエネルギー問題を解決する究極のクリーンエネルギーと位置付け

（2）CO２削減

地球環境に貢献。

投資家の間では気候変動のリスクを回避して、安定した投資先を求めるESG投資が今や主流に

なりつつあります。**今後、企業経営において脱炭素社会を意識しなければ、投資を呼び込む事は**

難しくなると言われています。

（３）防災対策

暗闇対策・・・震災等で停電時でも水さえあれば、発電出来るので有効的です。

食材の確保・・・停電時でも使用出来るため、冷蔵・冷凍庫の食材が腐らない。

情報ツール・・・携帯の充電の貸し出しなどで活用。

地域活性化の中心になる・・・防災を起点にした地域コミュニティの活性化。

（４）電力不足に対応

計画停電に左右されない。

余剰電力は蓄電できる。

【一般的な全国のFC店への波及効果】

NEDOの補助金では大企業のみとなっており、直営店しか補助金がでないが

経産省・環境省の補助金では中小企業も２/３でる補助金があるため

ＦＣ店でも条件が合えば申請が可能となっている。

※別紙一覧表あり

※FC店さんの電気代が安くなる事を本部が波及させる

FC店さんも災害時、地域のコミュニティーの中心になるよう、促す。

地域密着型の店舗へ

【燃料の安全性について】

『水素は爆発しやすく、非常に危険で恐ろしいもの』と考えている方もいますが、

決してそんな事はありません。確かに着火性は高いですが、拡散が速く、

ボンベなどから漏れても　すぐに薄まるため、なかなか火が付きにくいと言われています。

また、『水素が金属をボロボロにする』とも言われていますが、

それは、高圧化の条件下の話です。

低い圧力で運用している限り金属を痛めることはありません。

炭素排出Zeroジェネレーターは、１気圧以下になるよう調整しています。

【販売方法について】

・**直販のみ**で、代理店契約等は一切行わない。

【メンテナンス・保証について】

・メンテナンスに関しては、上場企業グループが**24時間365日対応**します。

・保証については保険で対応します。
製品はもちろんですが、電気が出力できなかった場合の損失に対応できる保険もあります。

【工事に関して】

・導入工事は置くだけとなってます。

・分電盤から冷蔵・冷凍・IH・照明等を切り離し、炭素排出Zeroジェネレーターに接続。

・給水工事

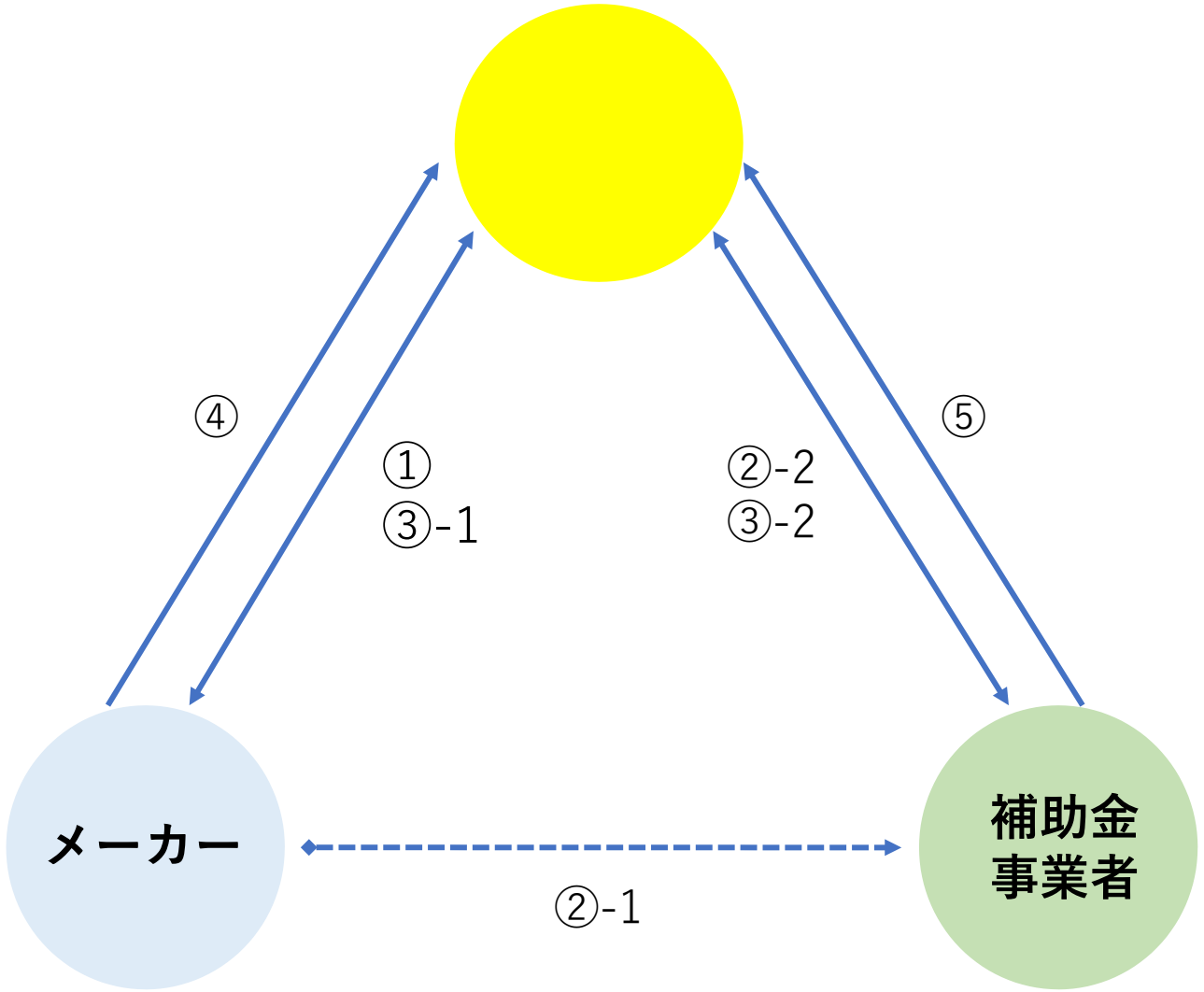
手動で給水出来るが、

精密機器が入っているところを給水の度に、開閉しなければいけない。

そのため、ぶつかってしまったりした場合に故障する恐れがあるので

給水はフロートスイッチ（別紙図面有り）で対応出来るようにする。

【補助金申請の流れ】 ～50%補助金ありの場合～



流れ

①：仮契約
②-1：連絡
②-2：事前申請協議
③-1：契約
③-2：申請
④：設置納品
⑤：入金

入金時期

契約時：１５％
中　間：１５％
納品時：２０％
補助金入金後：５０％

※最大50億円まで
上場企業のみ申請可

【導入事例】

茨城県にある病院（４００床）

導入前は電気代が月２００万円。

導入後は**月２０万円。**

差額**１８０**万円

導入資金は

炭素排出Zeroジェネレーター５０Kw（6,000万円）を3台　＝　1億8000万円

この内の１/２は補助金で対応すれば、**実質9,000万円。**

４年と２カ月で導入資金の元を回収。